
日本児童文学学会 12月例会のご案内

拝啓 晩秋の候、皆様方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、日本児童文学学会12月例会を下記の通り、オンラインで開催いたします。会員以外の方でも事前申し込みをいただければ参加できます。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

発表1 言説 VS 腕力—児童文学のなかの裁判を考える—

梅野愛子（日本女子大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻）

《概要》

児童文学作品のなかには、時折、裁判の場面が登場する。もちろん裁判は一般文学でも広く見られる設定だが、子どもの本という、一見、司法とは縁遠いように思われる世界観のなかに登場する裁判は、児童文学なりの装置になっていると思われる。日本の児童文学で言えば即座に宮沢賢治が思い浮かぶところだが、欧米の児童文学作品でも古典から最近の人気作家の作品まで、多岐にわたって見受けられる。本発表では、ショーン・タン作Tales from the Inner City (2018) の「クマ」の章における人間を訴えたクマの裁判から出発して、古典作品のなかに裁判という場を考察する上でのヒントを探ってみたい。

発表2 ショーン・タン作『ロスト・シング』を読み解く

—欠如と喪失、境界と領域、そして記憶と記録—

今田由香（日本女子大学准教授）

《概要》

ショーン・タン (Shaun Tan) の物語絵本の多くには、何かが欠けていることや失われていることを読者に意識させる表現が見つかる。質の異なる世界や生き物が出会い、その境界やそれぞれの領域が印象付けられる場面もある。また、物語は、過去の記憶あるいは記録として語られている。ショーン・タンの初めての自作絵本『ロスト・シング』(The Lost Thing, 2000/日本語版 岸本佐知子訳、河出書房新社、2012.)を中心に、これらの特徴と作家が表そうとしているものについて考えてみたい。

・司会 = 川端 有子（日本女子大学教授）

<日時> 2022年12月10日(土) 午後2時～4時

<参加費> 無料

<参加方法> Zoomを用いたオンライン開催

※参加ご希望の方は、以下のGoogleフォームでお申し込みください。

折り返しZoomのURLをお送りいたします。万が一、届かない場合は例会担当
(jscl.tokyo@gmail.com) までお問い合わせください。

当日は、午後1時45分以降に、ZoomのURLにアクセスください。

お申し込み時と同じお名前で入室をお願いします。

お名前が一致した方の入室を許可いたします。

※申し込み締切：12月7日(水)

参加申し込みフォーム

<https://forms.gle/zNFS2zWGCZ81KDBK9>

